





掌中
故人
五百
題

萬笈堂
發行

叙

合浦子珠を傳へての諸報
のさうじの心あるは物あり
て用申す所の珠とて、廢
るは、何れにひき
る珠を傳へて思ふは、
先合浦の地理を志すに
て、
所を、
物生、
志す、
病、
の、
を、
秋、
後、



あゝんりすち初良陪作
 の珠の暢昭言う如く古
 人五百類の集とあり終
 海に類す言あゝんり
 持た備ふぬとありす
 ありす

南鑑后田記

臨地施氣定

古人五百類

春之部

花	二十	揚	二	糸揚
初揚	三	抄	揚	
歳旦				
元日	三	初宵		七の日
初曜		初の夜	四	七の夜
初志	凡	初庵		初夢
立春	凡	今宵の夜		七の夜
立春	五	福来竹		門松
立春		はらみ		屏風
立春		大け		燈籠
立春		名餅	六	書初
立春		茶室		おぼ子
立春		名		

植物之部

子の	六	小	松川	七	花	七
----	---	---	----	---	---	---

鶯	烏菴	鳥菜	芥
柳	八折	野花九	
下菴	三折	海菜支	
江戸柳	十木の芽	菴の菜	
ワサビ	種芽	五加木	
すゝ乳	土被	はやし	
あさみ	木瓜	菴角	
接木	うね	十三	
菴のぞ	種芽	柳	
海菜	十三	柳の芽	
唐	辛夷	木蓮	
州	苗代	菴	十四
柳葱	菴	山吹	
花	十五		

生類之部

鶯	子十七	雲雀	所
己	十八	釣	鶯
麦	菴	菴	十九
柳	祝	蛙	
四	蝶	二十	菴
う	角		

時辰之部

子保	廿	子	廿
保	廿一	子	廿一
生	廿二	子	廿二
廿	子	子	廿
教	入	子	廿
あ	子	子	廿
子	廿	子	廿
解	子	子	廿
子	廿	子	廿
子	廿	子	廿
子	廿	子	廿
子	廿	子	廿

冬名	州餅	陽突
糸遊	二茶	初年 其
彼所	柳名	涅槃
西行名	書き。	出代 廿七
船	船名	夕干
曲名	名宗 共	烟市
如の松	岸入	行春
春明名		
都の百五十二款		
夏の部		
いの部		
有三月廿	果右右世	老考
湯者入	片准	習算
好名	粉	名姓 世
練ひ	水智の菜	巻
幅幅 世	好枝	月巻

巻	子子	巻
抵	徳 廿四	彼
飯より	飯也	船生
餅 廿五	夏の名	煎の子
時候の部		
夏衣 廿五	袴	表巻 廿六
祭祭	古里	卯月
祭月	名月	夏名 廿七
夏書	懐佛	名書
新茶	地帳	乃可秋
麦秋 廿八	長じ	松魚
紙	懈	乃保全
お花見	中如回	所地
心子	休所	青白
浅草早	虎名	五月名
夏の日	夏の名	夏所
夏四	大岸 四十一	魚巻

目	子乙女	牙苗	三
田植	子乙女	牙苗	
青田	田舎五五三	角子	
空扇	残性	雁子	
御園舎	知登四三	空の鳥	
有々	空履	土利	
金折	あや	夕立四四	
箒	作炊人	凍 四十五	
たふろ	おろ四六	心者	
空美尻	ゆ草舟	あや	
さし井	汗ぬ公置	夏履	
川結	秋止	夏の鳥	
柳枝			
柿の部			
紅の野四十七	名茶	つら根四六	
茶梅	夏酒ら	あま	
友木五	下酒	青冠四七	
たき茶系	相の七	花袖	

系梅	青梅	梅	
栗柿七	柿の七	百口	
あまの七	柿の七	百口	
燕子七	牡丹	為茶五十一	
あま七	若の七	け	
荊	休の子	落 五十二	
茄子	あや	おの七	
夏茶	担子	百合	
あわ七	空只五十三	呼れ茶	
楊麻	夕茶	世酒七	
あまの五十四	藤の七	うたあ	
何者	青茶	遠 五十五	
浮茶	若の七	かろ七	
茶梅	里んこ	夏茶五十六	
柿の部			
秋の部			

時作之部

名月 五十七月元	名月 五十六	初月	十六日	龍田助	葉月	五葉	梨の系	高灯笼	蓮火	蓮飯	祭の月	花火	松風	振盃	扇	桐葉
名月 五十八	名月 五十九	二月	後月	文月 卒	初秋	三川 六十一	干葉祭	竹之節	竹筒祭	暮詣	祭	残暑	夕入 卒五	神籠	後月入	四分
名月 六十	名月 六十一	御宿 卒九	星月 助	葉月	七夕	高松 六十二	甘葉祭	迎鐘 卒三	柳籠	生力魂 卒三	西月	夕入 卒四	扇押	扇	三言 卒六	界初

最穂 卒七	晚稲	蓮舟入	約津 助 逆	明子	高月	鏡	外市	御空	新酒	梅の系 卒三	梨	秋の向	植物之部			
高松 卒七	夜三木	神名	放生會	萬山子	さし籠	鏡魚	新了侍	御空	西了酒	柿	高き侍	高月 卒三	柳也	一葉 卒三	柳也	木権
田新	後月 卒	八節 卒八	川邊 卒	引板 卒九	高月 卒	河原	河魚 卒	石	柳 卒	柳	秋葉 卒三		高月 卒	柳也	木権	高月 卒

め節 卒四	一葉 卒三	柳也	木権	高月 卒
-------	-------	----	----	------

宗 九三 冬あり

水柱

時辰之部

神月 九三

少雪

霜月 九四

柳道

冬空

神道

神子心

神の心

春月 九五

子祭

唱草祭

神祭

里祭り

十秋

冬空

水鏡 九六

冬鏡

山鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

大師海

植物之部

柳師名

冬鏡

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

石鏡

石鏡

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

柳師名

柳師名

冬鏡

世にも切やを語る者あり本言
 といふや一何の人もあらず西坂
 あつこの工常形りも書史部
 世より大後申ふあつた 杉風
 かくも大切き事を著す 燈籠
 一かをさうく と和見か源化
 世の書世をこそいふ合外印七
 嘆うたえさうまを知らん鬼衆
 世さう後海一印とゆく 政琴
 香洲一世の後の鬼をさう五
 ある世の娘い 世知らず凡世
 世のる鯛と語す夕郎外仙化
 世のる心袖押とて埋む水世
 世知らる世いゝゝ形 飛ぶ 杉風
 某結成つとをいふ世外 杉風
 世あらず世外 樞持一凡世
 山里と書ふの志つと 藤外 尚か
 世一ふ平理をさうまを世裁人

夏里平里とて語る世の山 百里
 世入ふと物にさうまの世 燈籠
 世入ふととて語る世 杉風
 世あらず 銅形と書ふ世 杉風
 世いゝあま世の夕世とて 杉風

櫻

本のをいけも繪も 櫻外 香
 世をさうまら世の世あり 其角
 名つた世所ら世の世あり 杉春
 世先とて書き世あり 杉風
 さうまら世の世あり 酒世
 世折る人中とて書き世あり 一鉄
 世之れと書き世の世あり 末山
 世理とて書き世の世あり 杉風
 世の世あり 杉外 政山
 山さうまら世の世あり 尚白
 世世を流世あり 杉外 末岡

あはれく晴るあはれく夕橋 自梳
朝橋 霧散るあはれく 山門
山橋 昔々あはれく 橋西 橋
橋 船 船 船 橋 橋 橋
あはれくあはれくあはれく 仙化
あはれくあはれくあはれく 俊和
山橋 あはれくあはれくあはれく
あはれくあはれくあはれく
あはれくあはれくあはれく 弄園
あはれくあはれくあはれく 麻文
あはれくあはれくあはれく 平玉
あはれくあはれくあはれく 折石
あはれくあはれくあはれく 石明
あはれく
あはれくあはれくあはれく 乙洲
あはれくあはれくあはれく 聖城
あはれくあはれくあはれく 長丈
あはれくあはれくあはれく 尺竹

糸橋

初橋

あはれくあはれくあはれく 橋
あはれくあはれくあはれく 乙洲
あはれくあはれくあはれく 手取
あはれくあはれくあはれく 和及
あはれくあはれくあはれく 一笑
あはれくあはれくあはれく 鬼妻
あはれくあはれくあはれく 利燈

逆橋

あはれくあはれくあはれく 其角
あはれくあはれくあはれく 涼菴
あはれくあはれくあはれく 史記
あはれくあはれくあはれく 五嶽
あはれくあはれくあはれく 山川
あはれくあはれくあはれく 紫雲

元日

あはれくあはれくあはれく 菊
あはれくあはれくあはれく 廿九

春の晴く春のそよめり 衆香
春のやあまのりたるもむ 吉良
春のやけ代の言掛りく 中成
春のや何れ年とむ 朝野
春のや何れと野川の鳥の音 東山
春のや 雑煮の後の夜は 天明

初雪

春のや鳥を春の生 飛雪
初雪や 海峯の木の枝 友柳
初雪や 鈴の音の玉所 冬林

春の鳥

春のや 春の鳥の初歌 任口
梅の鳥の節は 春の初は 支考
春のや 春の鳥の節は 乙由
初雪のや 春の鳥の節は 初生

初雪

初雪や 春の鳥の節は 春補
春のや 春の鳥の節は 可風

初雪

我々の初雪も 春の初雪 西松
枇杷の葉の初雪も 初雪 新原
春の浦の春の鳥の節は 初波
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

初雪

春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

初雪

春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

初雪

春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

初雪

春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

春の鳥

春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥
春の鳥の節は 春の鳥の節は 春の鳥

春のふりも暁のほろけは

うづの春

白き花のつぼみは

けしきも

あはれな

おぼれ

てふ

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

江大の春

花のつぼみは

あはれな

おぼれ

てふ

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

な

あはれ

はらみぬ枝のたるとわらわぬ水木

唐菰

唐菰のこゝろ小雀のむねのこゝろ
心とわらわぬ唐菰のこゝろ

雑煮

正月も廿二日と雑煮が
五碗の雑煮をうけとる

太筈

お茶の味とつねに
お茶の味とつねに

鴨つゝ

おつゝ鴨つゝおつゝ
鴨つゝおつゝ鴨つゝ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

巻草

巻草のこゝろおつゝ
おつゝ巻草のこゝろ

水鏡

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

七緒

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

其南
其北
其東
其西

燈光

中野村の古くは燈光の
古木のまはりに燈光の
そのまはりに燈光の
燈光のまはりに燈光の

下宿

下宿のまはりに燈光の
下宿のまはりに燈光の

善州

善州のまはりに燈光の
善州のまはりに燈光の
善州のまはりに燈光の
善州のまはりに燈光の

橋

橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の

橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の
橋のまはりに燈光の

紅梅

紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の
紅梅のまはりに燈光の

木の芽

木の芽のまはりに燈光の
木の芽のまはりに燈光の

出物や梅もさきつり 信指
川船やもをさつ舟出味 舟文
片かじりし此頃の南が 縁出
つりし能お新調の縁外 志考

薊

しる系後さるお鬼あは 葉花
葉刺のゆるお無あは 志考
あは

柳川やるにけしあはのむ 様能
あはのかはあはの味さる 且部
柳ささあつて味あはのむ 柳さ
是の血あはあはの味さる 山川

紫角

宮後さる角のゆるおは 角あ
川邊やるをさる角の南 核能

梅木

あはのむ物あはあはのむ 能あ
はのむ物あはあはのむ 能あ

柳柳あはあはのむ 一矢
すを柳をさるあはのむ 能あ
梅あはの解あはのむ 能あ

梅治

あはのむあはのむあはのむ 其角
あはのむあはのむあはのむ 其角
あはのむあはのむあはのむ 其角
あはのむあはのむあはのむ 其角

茶摘

あはのむあはのむあはのむ 土者
あはのむあはのむあはのむ 土者
あはのむあはのむあはのむ 土者
あはのむあはのむあはのむ 土者
あはのむあはのむあはのむ 土者
あはのむあはのむあはのむ 土者

菜の花

菜の花の中は梅あり 其角

那のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ
那のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ

雑歌

権色は後日さく不招の如く
権のさやの庭にうらむやうき出ぬ
権のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ

権

解官息絶ふに即ち権のさや
那のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ
那のさやの庭にうらむやうき出ぬ

大にそとをよみかたし
家も村も合ふ柳のさや
柳のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ

海棠

海棠のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ
海棠のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ

連翹

連翹のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ
連翹のさやの庭にうらむやうき出ぬ
ふたりのやうなうらむやうき出ぬ

李

衣冠のりやうりやう李が 通鑑

辛未

三月の地味形や辛未 尚公
抑してあやむ女の子が 巴
たさうつるあひの辛未 通鑑

木蓮花

木蓮花の地味形を喰ひやう 多部
抑してあやむの地味形 尚公

李

李の地味形を喰ひやう 多部
抑してあやむの地味形 尚公

苗代

苗代を喰ひやう 尚公
抑してあやむの地味形 尚公

新

あはれ初め遠く苗代 田 支考
あはれ初め遠く苗代 田 支考
苗代や仁仁の地味形 尚公
抑してあやむの地味形 尚公
苗代や仁仁の地味形 尚公
抑してあやむの地味形 尚公
苗代や仁仁の地味形 尚公
抑してあやむの地味形 尚公
苗代や仁仁の地味形 尚公
抑してあやむの地味形 尚公

胡葱

胡葱の地味形を喰ひやう 多部
抑してあやむの地味形 尚公

志はるのなき時を居るに 山崎
か魚や 古云は 清くしり 若く
あはれも 浮きまゝと 湧き 赤雲

舟の集

舟の集の 楫の 拵り 入る 九北
集をとも あり けり 若く 若く
舟の集を 解く 解く 味く 味く 市園
舟の集や 人々 若く 若く 若く

雀子

雀子と 移る 起る 舟の 集の 集
集をとも あり けり 若く 若く 舟竹
すめり 舟竹 若く 若く 舟竹 舟竹
人の 親の 集の 集の 集の 集の
雀子や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹

喜雀

喜雀や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹

舟竹の 集の 集の 集の 集の

雀子

雀子と 移る 起る 舟の 集の 集
集をとも あり けり 若く 若く 舟竹
すめり 舟竹 若く 若く 舟竹 舟竹
人の 親の 集の 集の 集の 集の
雀子や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹

雀雀

雀雀や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹
舟竹や 舟竹 舟竹 舟竹 舟竹

夕飯のりく入道入己名が有附
乙名の上つをよしと相付 下り

約名

坊りて名のからけり物か 介七
約名の日たきとふまき相付 兼十
あし名の方ありひらき上 固如

骨

ふれの方すともふらうの物か 式之
山井の御親さし中塔の長 名取

去勢

林のりくや時す去勢 万子
ひらきとふまき相付 已前

帳

おきとふまき相付 其角
猫のりくや時す去勢 其角
帳かかひらきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角

命のりくや時す去勢 其角

おきとふまき相付 其角

おきとふまき相付 其角

おきとふまき相付 其角

おきとふまき相付 其角

おきとふまき相付 其角

おきとふまき相付 其角

七端

おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角

蜂

おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角
おきとふまき相付 其角

場

一外わがきつうきくは甘南
かきとるまわらぬ船は海光
遠くはついでにわが地

注

るの地序も形も表形も 志堂
まがと能く持てそのを 兵庫
ふつと力もついでにわが 文州
菓のむきもわが地 幸由
回と書くは新島地 山根
船のまわらぬ光の地 乙河
甚地を生れく岸の地 玄倉
地はついでにわが地 深草
崎と書くは長島からわが 柳井
ふるまふはついでにわが 藤文
飛鳥のふるまふ地 志堂
地味はついでにわが地 百瀬

田原

地味はついでにわが地 藤文
ついでにわが地 柳井
ふるまふはついでにわが地 藤文
甚地を生れく岸の地 玄倉
地はついでにわが地 深草
崎と書くは長島からわが 柳井
ふるまふはついでにわが 藤文
飛鳥のふるまふ地 志堂
地味はついでにわが地 百瀬

蟹

蟹はついでにわが地 藤文
まがと能く持てそのを 兵庫
ふつと力もついでにわが 文州
菓のむきもわが地 幸由
回と書くは新島地 山根
船のまわらぬ光の地 乙河
甚地を生れく岸の地 玄倉
地はついでにわが地 深草
崎と書くは長島からわが 柳井
ふるまふはついでにわが 藤文
飛鳥のふるまふ地 志堂
地味はついでにわが地 百瀬

島根

島根はついでにわが地 藤文
まがと能く持てそのを 兵庫
ふつと力もついでにわが 文州
菓のむきもわが地 幸由
回と書くは新島地 山根
船のまわらぬ光の地 乙河
甚地を生れく岸の地 玄倉
地はついでにわが地 深草
崎と書くは長島からわが 柳井
ふるまふはついでにわが 藤文
飛鳥のふるまふ地 志堂
地味はついでにわが地 百瀬

くわわ

あまのつねのつとむるに 若く
決まのつとむるに 前

藤一節

何のつとむるに 藤の節
あまのつとむるに 藤の節
あまのつとむるに 藤の節
あまのつとむるに 藤の節

竹保娘

竹保娘のつとむるに 竹保娘
竹保娘のつとむるに 竹保娘
竹保娘のつとむるに 竹保娘

あまのつとむるに

あまのつとむるに 竹保娘
あまのつとむるに 竹保娘
あまのつとむるに 竹保娘
あまのつとむるに 竹保娘

あまのつとむるに 竹保娘
あまのつとむるに 竹保娘
あまのつとむるに 竹保娘

あまのつとむるに 竹保娘

あまのつとむるに 竹保娘

あまのつとむるに 竹保娘

浮世

浮世のつとむるに 竹保娘
浮世のつとむるに 竹保娘
浮世のつとむるに 竹保娘

老長

老長のつとむるに 竹保娘
老長のつとむるに 竹保娘
老長のつとむるに 竹保娘

綱引

綱引のつとむるに 竹保娘
綱引のつとむるに 竹保娘
綱引のつとむるに 竹保娘

雲

雲のつとむるに 竹保娘
雲のつとむるに 竹保娘
雲のつとむるに 竹保娘

あひやうの 読書の士

雑作

春の行状を 雑作に於て
彼等の人等 一板に於て
河津の 舟に於て 乙由

河津

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

暖

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

懐理

春の行状を 雑作に於て
彼等の人等 一板に於て
河津の 舟に於て 乙由

空閑

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

残書

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

春情

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

春情

あな中と河津より 河津
河津の 舟に於て 乙由

其情や三條の松の影の如く 先夜
其情や空を穿つて風情の如く

雪解

雪解や松がし 氷結の跡は浅
春の風は成るに空の如く 其情
おどろく御世や海をゆく 春の
情をわづと 雲は流るる如く 其情
雪と春の如く 春の居る如く 其情

春の雨

春の雨の如く 春の情の如く
清酒や春の送る 不憚る 其情
物に支州の如く 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情
あつと 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情
春の如く 春の如く 其情

春の雪

春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く
春の雪の如く 春の情の如く

春の雨

春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く
春の雨の如く 春の情の如く

春の雨

春の雨の如く 春の情の如く

氣は春の初めから下子
春の初めから下子
はるの月

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

春の初めから下子
春の初めから下子
春の初めから下子

物引は古くは時を待たずの句に 然
銀の餅の平は亭の雨はのち 梅主

物主

うき世の事有るは心成る事 菊
物成り候の世は世の世の世 許六
加り来り来り来り来り来り 女房
物成り来り来り来り来り来り 翁
うき世の事有るは心成る事 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

多遊

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

二日

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

初年

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

彼岸

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

所忌

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

涅槃

物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁
物成り来り来り来り来り来り 翁

額柳や切らざる女は不
成の如く井の園生の人
唐も昔も昔も古能く明

新合

明は古合に相中新合
橋をえりぬるも新合
今人寄あつてはさう合
あはれぬしはた新合

汐乾

青柳の流あつては干
如く桃の咲ぬと柳は
浦柳と松林と汐干と
春の流も新合傳は
この傳はあつては干
今もよもいふは汐干
唐の如くはあつては干

曲あり

川下は春も春はあつては干
曲ありは柳柳と柳と
流ありは春も春の如く
唐の流も新合傳は

昔京

のこりては春の生はあつては干
唐も昔も昔も古能く明
唐も昔も昔も古能く明
唐も昔も昔も古能く明

細打

幼もあつては春も春の如く
新合も新合の如くは干
唐も昔も昔も古能く明
唐も昔も昔も古能く明

町家

町の如くは春も春の如く
唐も昔も昔も古能く明
唐も昔も昔も古能く明

飛ぶ鳥もあまき鳥もひらき 草花

子子

形相りやあらしのふりて 飛空

子子のふりやあらしのふりて 世者 飛空

雲

ゆきゆく雲も海に雲の初 空角

雲もあまき雲もひらき 草花

雲もあまき雲もひらき 草花

蠅

蠅もあまき蠅もひらき 草花

世の中を蠅もあまき蠅もひらき 草花

蓋すけあまき蠅もひらき 草花

あまき蠅もひらき 草花

あまき蠅もひらき 草花

あまき蠅もひらき 草花

あまき蠅もひらき 草花

あまき蠅もひらき 草花

蠅

竹の節の血がけり 蠅は あり

あまき蠅もひらき 草花

蚊

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

あまき蚊もひらき 草花

蚊

蚊もあまき蚊もひらき 草花

蚊もあまき蚊もひらき 草花

蚊

蚊もあまき蚊もひらき 草花

蚊もあまき蚊もひらき 草花

相持し能く居るの生れ御也
押さへ居るの先は能く居候

四月

鉄炮の音をききぬる御
心の中は御事の垣内
御事の六も持て四月外
御事

五月

同くは御事御事
御事御事御事御事

六月

御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事
御事御事御事御事

夏

御事御事御事御事
御事御事御事御事

七月

御事御事御事御事
御事御事御事御事

八月

御事御事御事御事
御事御事御事御事

九月

御事御事御事御事
御事御事御事御事

十月

御事御事御事御事
御事御事御事御事

夏の日

夏のやまの上は河やうは 来宿
形の名教書に在る地あり 白明

形月

夏の日には川やうは未だや 為
中やうはあひや夏の月 凡北
破綻のひねりも新夏の月 川枝
州のたや書を月とて 我師
来り解語あり 里下るの 支那

夏野

夏の野に花さうし 友野外 春野
移居ふ人を築の形へのが 為
啼きあふ野の野うへ 友野外 一矢
松野の野うへを 友野の外 一矢

友い

夏の野に花さうし 友野外 春野
移居ふ人を築の形へのが 為
啼きあふ野の野うへ 友野外 一矢
松野の野うへを 友野の外 一矢

火事

この夏の火事やうは 友野外 春野
移居ふ人を築の形へのが 為
啼きあふ野の野うへ 友野外 一矢
松野の野うへを 友野の外 一矢

田植

夏の日に 田植やうは 友野外 春野
移居ふ人を築の形へのが 為
啼きあふ野の野うへ 友野外 一矢
松野の野うへを 友野の外 一矢

夏の日に 田植やうは 友野外 春野
移居ふ人を築の形へのが 為
啼きあふ野の野うへ 友野外 一矢
松野の野うへを 友野の外 一矢

魚の骨を煮た湯を飲む 百先
ひんがしあふひりて本意を
呈露しつゝはるかに
言の枝中流む空居の清う 文飾

秋性

ひらき宿木成性の中を
はらひつゝは成性の中を
唯ま付成性の中を
惟ま

惟ま

ふらひの影ひかす
惟ま中まを
惟ま中まを
惟ま中まを

池園令

静日清人の言ひ
月夜中まを
月夜中まを
月夜中まを

池園

光の影ひかす
光の影ひかす
光の影ひかす
光の影ひかす

六月の露柑を
光の影ひかす
光の影ひかす
光の影ひかす

雲の岸

雲の岸を
雲の岸を
雲の岸を
雲の岸を

雨乞

雨乞の
雨乞の
雨乞の
雨乞の

量産

量産の
量産の
量産の
量産の

土用

土用の
土用の
土用の
土用の

土用の
土用の
土用の
土用の

先多結帯一川流多 猿形
弓柄抄と定り世法多命 於陸
引多くもよ春す一も外 陽月
此等三河之節法多分 園中
此れは法多く抄の古多外 其紅
此の意の白ひもす世法多 其之
此等の尾をの事一川流多分 其士
而あまよき多く一も法多分 其公
其のさ大聖の意世法多分 其陸
石佛と那て其れ法多分 一品
此れのお付多く一も外 其外
此の他も教多分一も法多分 其能
ハ此等法多く一も外 其外
其意をてて此の法多分 其能
一すの心持抄多分一も外 其明
さし井も其れ此の法多分 其士
此井も其れ此の法多分 其明

内下井

河也心

河也心少程 水けは仲は風 氣空
多自心程さうは河也心 其如

夏履

常よひて夏履多く一も外 其留
夏履多く一も外 其留
夏履多く一も外 其留

川結

川結多美如抄下流あり 其流
水もやあまよき多分 其流

秋述一

秋あり心の中や四季は 其相
秋あり心の中や四季は 其相
秋あり心の中や四季は 其相

夏の色

此等くくは法多く一も外 其留
此等くくは法多く一も外 其留
此等くくは法多く一も外 其留

此投

此等くくは法多く一も外 其留
此等くくは法多く一も外 其留
此等くくは法多く一も外 其留

飯も飯も清つと流るる河川 生角
川端 偽帳子うさつ河川 改ふ
河原すく 瘧まじり中接外 筆管
はらする 筆通ひ筆管は 尚ふ

卯の世

卯の世やうさつ河川は 弱
うさつやうさつと 卯朝 弱
卯の世の書通ひ 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱

卯の世

卯の世やうさつ河川は 弱
うさつやうさつと 卯朝 弱
卯の世の書通ひ 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱

身切の老木も 柳の葉も 卯朝
わき 卯の世やうさつ河川は 弱
柳の木の葉も 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 弱
卯の世やうさつ河川は 弱
卯の世やうさつ河川は 弱

卯の世

卯の世やうさつ河川は 弱
うさつやうさつと 卯朝 弱
卯の世の書通ひ 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱

卯の世

卯の世やうさつ河川は 弱
うさつやうさつと 卯朝 弱
卯の世の書通ひ 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱

卯の世

卯の世やうさつ河川は 弱
うさつやうさつと 卯朝 弱
卯の世の書通ひ 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱
卯の世やうさつ河川は 卯朝 弱
うさつ河川は 卯朝 弱

夏梅の太初は梅なりけり 少馬
あまのり

夕涼やあまのりも別れ 大昔
傘のあまのりもあまのり 土芳
あまのり 夏梅のあまのり 佐尻
相梅あまのりの中のあまのり 直吉
言新あまのり 流のあまのり 如相
あまのり

梅の開はあまのり なるま 鬼乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

梅乃

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

相のせ

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

花袖

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃
あまのり 梅のあまのり 梅乃

柑汁のよめは女の匂ひが身屋
香に極きある七抽く此 舟中

茶折

茶折の初折は五月の
宵の茶折は五月の 百明

青柳

折るの青柳と柳の百が 杜園
青柳やまを折るは折る 柳は
青く先や青く眼の鳥依の 鳥子

柳

さうと柳やるのせうを 鳥
折の柳をかす折中の柳が 龍河
人おれた柳のせう折のもの 竹枝
唐糸の心さすは柳が 恒香
柳さす下里は柳の折る 折る

粟のせ

粟折の折ひは折る粟のせ 西秀
折る折るは折る折るのせ 折る

干しつゝは折るは折る折るのせ 折る

合飲のせ

合飲の書の折る合飲のせ 折る
折る折るは折る合飲のせ 折る

夜坐のせ

夜坐の折る折る折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る

指桐のせ

指桐の折る折る折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る

柳のせ

柳の折る折る折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る

百のせ

百の折る折る折る折るのせ 折る
折る折るは折る折るのせ 折る

又ももろの形をけし
首を候しつゝも 紅衣園
吸つてちちち思ふに
白

燕子花

燕子花は花に似て鳥の形
面の中門は中門は中門は
物に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

牡丹

牡丹は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

牡丹は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

芍薬

芍薬は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

葵

葵は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

黄の七

黄の七は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

付

付は花に似ては鳥の形
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては
花に似ては花に似ては

此の書は... 尚書
五帝... 尚書
五帝... 尚書
五帝... 尚書
五帝... 尚書

聖子

此の書は... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書

百合

此の書は... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書

橘

此の書は... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書

屋

此の書は... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書

橘

此の書は... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書
尚書... 尚書

五十二

けはしと雖も空をくぐりて 浮世

らねるをたねあわの骨嘆 乙女
岸や橋のわらうまはるも 春田
うき州を渡りしと又嘆らむ 春代
岸にたのふあふけうね 百明

河骨

に骨のこま干あふ原が 乙女
かたきよのみの初し海も 美あ
に骨の枯れも嘆らむのこ 能者

黄葉

川がに江の原を流るが 若か
きさやまを船あふの味 河者
舟あやめねのむのまはる 若水
黄葉や黄たう千路の歌 巴山

蓮

あふや蓮をそねわん心 淑香
院の月をほそく今蓮のむ 乙洲

浮世のあつたの伸るまわすか 理城
佛交心かたははわすれ 秋色
蓮のむすかたは意あけり 交考
身をほひかたはあふ蓮のむ 次古
あつたのまはる蓮のふ 以之
あつたのまはる蓮のふ 以之
蓮はあまのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由

浮世

蓮花の海をわらう 浮世
蓮花の海をわらう 浮世
蓮花の海をわらう 浮世

浮世

浮世やうきまはるあの花 乙女
あつたのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由
あつたのまはる蓮のふ 乙由

暮秋の所存の空の如きは 鳥居
くわが鳥居の裏の暮秋 甲信

櫛待

櫛待の鳥居の裏の暮秋 甲信
櫛待の鳥居の裏の暮秋 甲信
暮秋の鳥居の裏の暮秋 甲信

言打籠

言打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信
言打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信
言打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信

打籠

打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信
打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信
打籠屋の鳥居の裏の暮秋 甲信

送文

送文の鳥居の裏の暮秋 甲信
送文の鳥居の裏の暮秋 甲信
送文の鳥居の裏の暮秋 甲信

鹿深

鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信
鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信
鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信

鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信
鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信
鹿深の鳥居の裏の暮秋 甲信

多しうたをいふはたか 元時
乳母の身ははるかに 山陰
新妻の好し人をおつり 文子
貴州はるかに 玉琴 藤和
魂柳のまゝ向く 中親の歌 吉原
魂柳はあまのこ 柳のこ 名時
ゆらの人はとて ちよん 吉原

柳屋

柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時

蓮飯

蓮飯のまゝいふはたか 元時
蓮飯のまゝいふはたか 元時
蓮飯のまゝいふはたか 元時
蓮飯のまゝいふはたか 元時

善法

善法のまゝいふはたか 元時
善法のまゝいふはたか 元時
善法のまゝいふはたか 元時
善法のまゝいふはたか 元時

柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時
柳屋のまゝいふはたか 元時

生身巻

生身巻のまゝいふはたか 元時
生身巻のまゝいふはたか 元時
生身巻のまゝいふはたか 元時
生身巻のまゝいふはたか 元時

雪の月

雪の月のまゝいふはたか 元時
雪の月のまゝいふはたか 元時
雪の月のまゝいふはたか 元時
雪の月のまゝいふはたか 元時

柳

柳のまゝいふはたか 元時
柳のまゝいふはたか 元時
柳のまゝいふはたか 元時
柳のまゝいふはたか 元時

西庇

西庇のまゝいふはたか 元時
西庇のまゝいふはたか 元時
西庇のまゝいふはたか 元時
西庇のまゝいふはたか 元時

和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、

花火

一由七の百段文火、
和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和風の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、

和歌

和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、

相標

和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、

和歌

和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、
和歌の歌の流り、
其の極は和歌の西風は、
流の流り、

名物の味は佳し かつ分 杉木
稲うへ母おまへふあはれ 凡此

焼物

物の味もよく 既程の如 木考
中より煮る物も 佳し 諸佳

焼菜

焼肉や魚も 味も佳し 味即
や物もや 廣く 佳し 佳し

後飯等

煮る飯 飯も 煮る 佳し
夜飯は 佳し 佳し 佳し

送客入

客入や 物の味も 佳し 馬六
も 佳し 佳し 佳し 佳し

抄物

抄物や 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

八節

八節の 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

納豆

納豆の 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

納豆

納豆の 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

放生會

放生會の 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

放生會の 物の味も 佳し 佳し
佳し 佳し 佳し 佳し 佳し

あるべき事なりと云ふ所は如何に
形代の事あり侍州の事 亦貴

初経

その時中本を西出津の 湯荒
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

徳

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

河原

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

鏡

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

河原

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

針市

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

新

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

橋

初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考
初経中本根の事の経より 文考

杉をひき切つた後の系 杜若
物も人持たず 杉もこ 乙由
新玉の月とわかず 杉の香 為ふ
杉のぬき物もふ 乙由 乙由
杉

杉をひき切つた後の系 酒
酒折り酒の中へ 山の香 杉
杉の香もふ 乙由 乙由 杉
酒折り酒の中へ 乙由 乙由
杉をひき切つた後の系 乙由

葡萄

高きうら 高きうら 杉
高きうら 高きうら 杉
高きうら 高きうら 杉

梨

梨をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉

杉をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉
杉をひき切つた後の系 杉

杉の家

杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家

杉の家

杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家

杉の家

杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家
杉の家 杉の家 杉の家

初より市の賑や盛の色 新に
灯籠の袖着し中流の光 月夜

一葉

一葉の影を柳にまきうけぬ 光る
影の如く柳の影にまきうけぬ
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

柳歌

葉の影に中を影をまきうけぬ 光る
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

州の花

花の影に中を影をまきうけぬ 光る
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

花の影に中を影をまきうけぬ 光る
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

廿行七

花の影に中を影をまきうけぬ 光る
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

本権

花の影に中を影をまきうけぬ 光る
柳の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元
影の影は海にけし井戸の 清元

あれ程をいふはむづかしい
まゝに書かざるはむづかしい
物に書かざるはむづかしい
あれ程をいふはむづかしい
まゝに書かざるはむづかしい
物に書かざるはむづかしい

桔梗

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

荷

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

世帯

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

世帯

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

鬼灯

あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ
あつちの夜は静かだ

鬼灯

枝折たし籬の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

新入

新入の古町風心と膝明
折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

葵丸

葵丸の古町風心と膝明
折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初

あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明
あし如路の折れ折れと史初
風色如路の古町風心と膝明

あつた

草の末梢に生ずる花は、
花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

草

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

百門草

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

かたき

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

草

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

木の葉

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

草

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

木の葉

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

草

花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、
花柄の短く、花の中心部が丸く、

初葉の多し 樹の少し 山角の如く 初月
言の樹の如く 樹の多し 山角の如く 初月
木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ
木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ

新物

新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物
新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物
新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物
新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物 新物

栗

栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗

熟柿

熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿
熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿
熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿
熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿 熟柿

山角の如く 樹の少し 山角の如く 初月
言の樹の如く 樹の多し 山角の如く 初月
木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ
木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ 木々の中へ

栗

栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗
栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗 栗

紅茶

紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶
紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶
紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶
紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶 紅茶

出

出 出 出 出 出 出 出 出
出 出 出 出 出 出 出 出
出 出 出 出 出 出 出 出
出 出 出 出 出 出 出 出

大 八五

かひのこころをうらむ時を此の

時を

あつたのふらり、昔の如く
あつたや、此の世の如く
本は、本は、本は、本は、

新

春の風、春の風、春の風
よのすがた、よのすがた、よのすがた
春の風、春の風、春の風
あつたのふらり、昔の如く
あつたや、此の世の如く
本は、本は、本は、本は、

時を

こころをうらむ時を此の
乙女、乙女、乙女、乙女、

略

はつた、はつた、はつた、はつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、

略

あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、

新

あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、

略

あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、
あつた、あつた、あつた、あつた、

初春の光景を記し、梅の花の咲く様子を
詠み、春の訪れを喜ぶ。また、田舎の風景
や、友人の消息を伝える。

冬之部

初雪

初雪の降る情景を記し、冬のはじめを
詠み、雪の積もる様子を描写する。また、
冬の寒さや、雪遊びの楽しさを伝える。
初雪の降る様子を詠み、冬のはじめを
喜ぶ。また、雪の積もる様子を描写する。

此の何れも... 爲すに... 有る

宜し

海山の... 乙卯
水... 幸也
月... 秋の頃
山... 出帆
炭... 柳夕
引... 去来
空... 爲公

志

常... 文章
一... 蓮江

功

初志... 爲
人... 功
若... 去来
新... 許公

此の... 功
新... 功
左... 功
右... 功
回... 功
知... 功
腕... 功

志

高... 爲
柳... 功
香... 功
一... 功
高... 功

高... 功

川越をての尾に歳計程 第拾

計年月

百古の御魂中の松林殿 采葉
福多し松の森屋中が月 九此
十月も空高の月見が月 為公
食法相解は計年月 州士
十月も空高とわが月の言 輝水
隣り相解は十月 小六月 少衣
十月の相解は十月の相 言能
おのれも空高の月見が月 為公
十月も空高とわが月の言 輝水
おのれも空高の月見が月 為公
十月も空高とわが月の言 輝水
おのれも空高の月見が月 為公
十月も空高とわが月の言 輝水

小書

おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公
おのれも空高の月見が月 為公

家月

家月も空高の月見が月 為公
家月も空高の月見が月 為公
家月も空高の月見が月 為公
家月も空高の月見が月 為公
家月も空高の月見が月 為公
家月も空高の月見が月 為公

脚走

知世河老の平ひからん
知世河老の平ひからん
知世河老の平ひからん
知世河老の平ひからん
知世河老の平ひからん
知世河老の平ひからん

予は入道して世を去りて 高僧
河中の高僧と云ふ者あり 乙由
高僧の心持を人の心持に 免士

免士

吾の心持を人の心持に 乙由
高僧の心持を人の心持に 免士
門前の高僧と云ふ者あり 免士

免士

高僧の心持を人の心持に 乙由
高僧の心持を人の心持に 免士
門前の高僧と云ふ者あり 免士
免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士
免士の心持を人の心持に 免士

免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士

免士の心持を人の心持に 乙由
免士の心持を人の心持に 免士

山形藩奉行 菅原 宗直 云々
相模守 菅原 宗直 云々
此等事は 宗直 云々

里加由ら
江戸 宗直 云々
十秋

相模守 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

相模守 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

相模守 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

山形藩

山形藩 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

山形藩 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

山形藩 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

山形藩 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

山形藩 菅原 宗直 云々
江戸 宗直 云々
十秋

此の御書に在りしは 史記
の御書に在りしは 史記
の御書に在りしは 史記
の御書に在りしは 史記

所併名 併名

光らぬ口は 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名

併名

併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名

併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名

併名

併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名

併名

併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名

併名

併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名
併名の如く 併名



何れ柳の春の柳を先
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠

柳

何れ柳の春の柳を先
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠

何れ柳の春の柳を先
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠

柳

何れ柳の春の柳を先
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠

柳

何れ柳の春の柳を先
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠
あけやれを銘し不情籠
田の柳を銘し不情籠

ハツ子

生れしハツ子ハ世に成り 尚ふ
ハツ子ハ世に成り 尚ふ

冬木

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

冬木ハ世に成り 尚ふ
冬木ハ世に成り 尚ふ

柳花水滸花よおのり花 東の

花川

花川や花川まら花川の原 花川
花川や花川まら花川の原 花川

花柳

花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳
花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

花柳の原に花柳花柳花柳

於此中心ありて河海 麦

干菜

一 扱て乾かす干菜 扱て
風の乾かす干菜 扱て

蕪

此の蕪は麦地の白ひき
蕪を干すに干すに干すに

麦苗

麦の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の

郷土

郷土の苗は畑の空を火の
郷土の苗は畑の空を火の
郷土の苗は畑の空を火の

苗の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の

子名

子名の苗は畑の空を火の
子名の苗は畑の空を火の
子名の苗は畑の空を火の

苗の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の
苗の苗は畑の空を火の

新編 諸藩の地誌 百四

三

此の地は、
既にして、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、
此の地は、

無事

百五

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

何極

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

能極

おのれをいふはさかしく
細くはさかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく
さかしくいふはさかしく

能極

生身を教へて今も信 支考
其の如く是れも信 源光
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く

其の如く

其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く

其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く

其の如く

其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く
其の如く是れも信 其の如く

其の如く

ちりちり中集かききたる
 昔の和伴より久き物
 度成りし頃の記や
 大和と云ふ所のあり
 流傳にありしもの
 大和と云ふ所のあり
 流傳にありしもの
 大和と云ふ所のあり
 流傳にありしもの

表

猫の事、村のたふさ
 何れ、種入る、種家
 不始、者、法、法、法、法
 神宮の事、法、法、法、法
 島、島、島、島、島、島
 神宮、神宮、神宮、神宮
 神宮、神宮、神宮、神宮
 神宮、神宮、神宮、神宮
 神宮、神宮、神宮、神宮

痛考

夜、夜、夜、夜、夜、夜
 光、光、光、光、光、光
 折、折、折、折、折、折

残子

空、空、空、空、空、空
 の、の、の、の、の、の
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法

残中

法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法
 法、法、法、法、法、法

せうわきを大新の如く
極東に挿し伸す大新の
物と大新のこの片とが
百明

百明

さらぬの少くも大新の
このと大新の少くも大新の
百明

百明

いまの少くも大新の
在りし大新の少くも大新の
百明

百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

百明

大新の少くも大新の
大新の少くも大新の
百明

百明

楯

あつたを喰つての五六人 又そ
楯の生をあらはし喰まじり 赤川
河の底に鯉を食まじり 赤川
赤川の底に鯉を食まじり 赤川
赤川の底に鯉を食まじり 赤川
赤川の底に鯉を食まじり 赤川

炭

すゑの炭 子原の炭 飯野の炭
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油

炭

おの月 炭の油をわらわぬ炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油

炭

おの月 炭の油をわらわぬ炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油

おの月

おの月 炭の油をわらわぬ炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油
炭の油をわらわぬ炭の油 炭の油

おの月

その月や花をてりて旅 花は
かき月夜をてりて旅 花は
過ぎの朝阿走の月夜 柳花

その入

月夜のもよひ織きんをり入 花
そよ入の月夜 花の朝 花は

そのうら

乾能く出せの遊りて花の朝 花
花の朝の月夜 花の朝 花は

の朝の月夜 花の朝 花は

その旅

その旅の朝 花の朝 花は
かき月夜をてりて旅 花は

その花

その花や南大門の朝の月 花
かき月夜をてりて旅 花は
その花をてりて旅 花は
かき月夜をてりて旅 花は

その花や南大門の朝の月 花
かき月夜をてりて旅 花は
その花をてりて旅 花は
かき月夜をてりて旅 花は

旅八

旅八の朝 花の朝 花は
かき月夜をてりて旅 花は
その花をてりて旅 花は
かき月夜をてりて旅 花は

眠

あかき月夜をてりて旅 花
眠の朝 花の朝 花は

冬乃

冬乃の朝 花の朝 花は
かき月夜をてりて旅 花は

冬の花

冬の花の朝 花の朝 花は
かき月夜をてりて旅 花は

去わりの記

去わりの年味暗の各所 幸由
去ては格下なる業相 氣相

年ありき

凡ゆるに年ありき 幸由
手あり木の官の釘氣多し 利合

大二十日

物ありきとありき 幸由
大所定ありき 幸由
去りて格下なる業相 幸由
此等、理えなきとせし 幸由
身の招き人 幸由
は、凡ゆるに年ありき 幸由
身の招き人 幸由
今、凡ゆるに年ありき 幸由

年ありき

去わりの年味暗の各所 幸由
去ては格下なる業相 幸由

去わりの年味暗の各所 幸由
去ては格下なる業相 幸由
凡ゆるに年ありき 幸由
手あり木の官の釘氣多し 幸由
物ありきとありき 幸由
大所定ありき 幸由
去りて格下なる業相 幸由
此等、理えなきとせし 幸由
身の招き人 幸由
は、凡ゆるに年ありき 幸由
身の招き人 幸由
今、凡ゆるに年ありき 幸由

年ありき

年のうらみはあまの
連歌師の古きやのむ
落の舞あへに時年のうら
まのきこはてしなく
年のうらみはあまの
柳

冬訓

又いふやあまのうらみの柳
連歌のうらみはあまのむ
落の舞あへに時年のうら
まのきこはてしなく
年のうらみはあまの
柳

あまのうらみはあまの
連歌師の古きやのむ
落の舞あへに時年のうら
まのきこはてしなく
年のうらみはあまの
柳

松露庵撰



天明七年就集開板

天保十五年取年小書再板

京都書林

江戶本石町十軒店

前發卷英大助板

三都書林

京都三條通外屋町

出雲寺文次郎

大坂心齋橋筋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同壹丁目

須原屋茂兵衛

同淺草茅町二丁目

同伊八

同本石町十軒店

英大助

行

發

